

市民文芸

短歌

令和元年
阿南市春季短歌誌上大会選

- 佳作 穴明きのジーンズはきし孫若しかき緋モンペの我の青春
米田 啓子
- 佳作 幾万の花屑踏んで山登る峰の社は朝靄の中
原 美智子
- 佳作 流れゆく春愁抱き花筏山鳩の声山路につづく
矢野 道子
- 佳作 逃れざる齡となれど花だより尋ね聴きにつ桜恋ふ日は
横山みつ枝
- 佳作 稜線の茜に浮かぶ夕つ方美声はりあげ選挙カ一の来る
小西 千恵
- 佳作 品種変へ育つ稚苗のみづみづと元肥撒きて春耕を待つ
西崎まき子
- 佳作 似合うだろポーズをとりて夫は着る亡兄の遺せし服を出しきて
山本 賀代
- 佳作 轟が円かに聞こゆ春雷に濃き夕闇もゆるくほどける
水口 明美
- 佳作 藁立ちの力抑へて白菜のまるき形に遅き霜降る
中原きみ子
- 佳作 街川のゴミの溜りに流れつき散る花片は逃げ場を探す
小畑 定弘

俳句

阿南市俳句連合会選

- 白壁の土蔵眩しき夏の雲
東條 明宏
- 戦中に生れ戦争を知らず夏
山野 賢治
- 向き会える正面いつこ西瓜切る
笹田 知睦
- 飛びたつも潜むもまねて稲雀
中野 郁
- 暑に籠り魂しい抜けしよう眠る
竹谷 由美
- 時化る海轟音やまず夏岬
藤本 弘子
- 頃合の鱧とは捌きやすかりし
宮崎三千代
- 一球の重みに涙秋立ちぬ
多田紀久代
- 落ちそいで落ちぬ丸茄子三個盛
山田 百代
- 大花火に耳栓欲しいと泣きし子よ
芳田 悦子
- 川柳
阿南川柳会 田上 鶴子選
- 人の世はすべてが師なり草も木も
西田 修身
- 真心を包む田舎の新聞紙
原 公美子
- 追及へさりと釘を刺しておく
渡邊 浪漫

ロボット先生就任の日も秒読みに
砂浜は亀のふか孵化まで託される
淡々と過ぎる一日お蔭さま

佐藤つたえ
高木 旬笑
田上 鶴子

一般応募

米に泣き米に笑える今の幸
目も耳も歯にも他人の住む八十路
姉も逝きおまけ人生ひとり旅
今思う厚い冊子が教師です

鳥尾美津子
武田 敏子
仁井 信子
吉田 當代

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

新秋夜坐

節入新秋詩思清
雨餘頓覺早涼生
獨坐推敲明月句
墜露多邊蟋蟀鳴

節は 新秋に入り 詩思清し
雨余 頓に覚ゆ 早涼の生ずるを
独坐 推敲す 明月の句
墜露 多き辺り 蟋蟀 鳴く

池田 行子

新秋即事

秋動郊墟小雨餘
金風玉露野人居
半簾兔影入箋夜
一片詩情得句初

秋動く郊墟 小雨の余
金風玉露 野人の居
半簾の兔影 箋に入るの夜
一片の詩情 句を得るの初

谷口田鶴子

賞月

杳渺長天坐夜闌
澄心到底正無端
水輪兔影輝千里
歎賞幾人何處看

杳渺たる長天 夜闌に坐せば
澄心 到底 正に端無し
水輪 兔影 千里に輝き
歎賞 幾人 何れの処にか看ん

折野 博子

※到底：徹底 ※無端：無限